

「三〇」熟語⑤三学

企業経営漫談士 岡野実空

「三学」とは、仏道の根本となる実践修行の「戒定慧」(かいじょうえ)。すなわち「戒」戒律を守り、「定」精神を集中し、「慧」真の智慧を獲得することです。ここではそれを「経営」に置き換え、事業をつうじて社会に貢献するために、私たちが学び続けなければならない「一般教養」と「実学」、および「雑学」という3つの領域について考えます。

その1: 一般教養

『三々な経営』本編だけでなく、この続編でも取り上げた「一般教養」。古の「リベラルアーツ」は、いま「自然/社会/人文」という3つの「科学」として、私たちの思考の基礎となっています。そのため高い山を目指すのであれば、必然的にその広い裾野を学習しなければなりません。しかし天才といえども、個人でそれらを網羅することは不可能。まして各分野が発展し続ける中、個人が追究できる領域は、全体から見れば逆に狭まっています。

それを補うのが「知」のネットワーク。また近年、時空を超えそれを可能にしたのが、情報通信技術の飛躍的な進歩でした。しかしそれを邪魔するのが、我が国固有の「理系/文系」などの強固な壁。それには百年河清を俟つより、その存在を前提とし、乗り越える工夫をするのが現実的です。またそのポイントとなるのは、組織という枠を超えた「非公式」、あるいは「私的」な「知」の交流なのです。

その2: 実学

福沢諭吉のいう「実学」とは、古来の「漢学」への偏りを補正する、上記「科学」のこと。しかしここでは、それら基礎の組み合わせによって成り立ち、ドラッカーによって体系化された「経営学」、すなわち「事業力」と「人間力」と考えます。

因みに本屋の「経営学」コーナーに並んでいるのは、その部品。MBA(経営学修士)はその典型ですが、それは所詮モジュールの一つに過ぎません。しかしそれをすべてと勘違いし、他の「事業力」の部品や「人間力」の学習不足の輩が惹き起こすトラブルは、相変わらず絶えることはありません。

それに警鐘を鳴らし続けた泰斗ドラッカーの、「マネジメントは一般教養」という主張。その理解度、および実践度は、いま新型コロナウイルス・ワクチンの開発力や接種の速度や進捗の差として、国別、組織別の統計数値に表れています。

「三々な経営」

3-4 企業人の「三多」

E-3 ワークライフ・バランスの段階

E-6 「ライフ・シフト」の必要条件③3つのワーク

その3: 雑学

さて今回のコラムで最も強調したいのは、「雑学」の重要性。私たちの先祖が『坂の上の雲』を目指して以降、とかくムダ扱いされてきた、「一般教養」や「実学」の「すき間」や「辺境」に位置する物事です。この続編で取り上げた、「文化」や「スポーツ」など「趣味」の領域は、その好例といえます。

また「工業化社会」は、その後の機械化、ロボット化を経て、現在の「知識社会」に入りました。しかしここでも、それを構成する主要な分野はどんどん体系化が進み、その要所に人工知能が進出して、多くの人間の「思考」を凌駕しています。

そんないま、「趣味」の世界には、私たちの「思考」のヒントが至る所に点在。そこからの「気づき」が斬新なアイデアとして「実学」に生き、人間とAIとの違いを見せつけてくれます。一部の学者は、そこにもAIの活躍を予言しますが、その余地がなくなれば、人間自体の存在価値も失われてしまいます。そうならないよう、私たちはせいぜい「趣味」の世界を広げ、深め続けましょう。

明治の代、文明開化による「工業化社会」に向け、欧米から輸入された青少年向け標語、「よく学び、よく遊べ」。その後一世紀を経て、生涯学び続けなければならない「知識社会」に突入したいま、それに付け加えなければならないのは、大人向けの標語です。「よく遊び、よく学び、よく働け！」

2021年6月14日 実空